

平成25年白老町議会総務文教常任委員会会議録

平成25年 9月 30日 (月曜日)

開 会 午後 6時 30分

閉 会 午後 8時 05分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 白老町小学校適正配置計画(案)について

- ・参考人からの意見聴取について
 - ・PTAの意見について
-

○出席議員(6名)

委員長 小西秀延君

副委員長 山田和子君

委員 吉田和子君

委員 斎藤征信君

委員 本間広朗君

委員 前田博之君

○欠席議員(なし)

○説明のため出席した者の職氏名

参考人(白小学校PTA会長) 熊谷貴洋君

参考人(白小学校PTA副会長) 加藤泰久君

参考人(白小学校PTA副会長) 越前真理君

参考人(白小学校PTA監査) 奈良俊之君

参考人(白小学校PTA監査) 増田奈緒君

○職務のため出席した事務局職員

事務局 長 岡村幸男君

主 査 本間弘樹君

◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） それでは、ただいまより総務文教常任委員会を開会いたします。

（午後 6時30分）

○委員長（小西秀延君） 本日は白老町小学校適正配置計画（案）について、適正配置計画の対象となっている白老小学校のPTA役員の皆さんに、参考人として本委員会に出席していただき、意見をお聞きすることにしております。参考人からの意見陳述の後、参考人に対して質疑を行います。よろしくご審議お願いいたします。それでは調査のため参考人として、白老小学校PTA役員会長熊谷孝弘氏、副会長加藤泰久氏、副会長越前真理氏、監査奈良俊之氏、同じく監査増田奈緒氏の5名を招へいしております。参考人の入室をお願いいたします。

暫時休憩をいたします。

休憩 午後 6時30分

再開 午後 6時31分

○委員長（小西秀延君） それでは休憩前に引き続き会議を再開いたします。

参考人には本日は大変お忙しい中、議員会の調査に当たり参考人として快くお引き受けをいただきまことにありがとうございます。会議を進めるに当たって参考人に本委員会についての説明をいたします。議会には行政の事務事業調査する常任委員会が2つあります。この委員会は総務文教常任委員会といたしまして、このたびの白老町小学校の適正配置計画（案）について、委員会で調査して報告することとしております。そのため、関係者からも意見をお聞きしながら、調査を進めることとしておりますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、まず委員の自己紹介を行います。山田副委員長からよろしくお願い申し上げます。

○副委員長（山田和子君） 副委員長の山田和子と申します。本日は雨の中お越しいただきましてありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

○委員（斎藤征信君） 斎藤でございます。よろしくお願い申し上げます。

○委員（吉田和子君） 吉田和子と申します。よろしくお願い申し上げます。

○委員（前田博之君） 前田です。よろしくお願い申し上げます。

○委員（本間広朗君） 本間でございます。よろしくお願い申し上げます。

○委員長（小西秀延君） 最後に私、当委員会の委員長を仰せつかっております。小西と申します。きょうは本当悪天候の中また仕事が終わってお疲れの中本当にありがとうございます。有意義な会議にしたいと思っております。司会進行も務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは早速ですが参考人の皆さんから、このたびの白老町小学校適正配置計画（案）についてお話を聞きたいと思っております。計画案では社台小学校、白老小学校、緑丘小学校3校の統合を進め統合の目標年度は平成27年度とされております。統合後の小学校施設は緑丘小学校を活用することとしております。白老小学校PTAの皆さんにはこの計画（案）に対しまして教育委員会から説明を受け、アンケート調査の実施や統合に対する協議をされていると思っておりますが、現段階での協議の状況や統合に対するお考えについてお話を聞きたいと思っております。それでは、PTA会長熊谷貴洋さん、よろしくお願い申し上げます。

○参考人（熊谷貴洋君） 皆さんこんばんは。白老小学校PTA会長をしております、熊谷でございます、よろしくお願ひいたします。6月の末、教育委員会さんのほうから統合計画案というのを3校のPTA役員をコミセンに集まりましてご説明をいただきました。その中での説明は2年後の4月1日に新しい学校を再開するという内容の説明でございました。それから各学校に戻りましてアンケートとかいろいろなものを取り、保護者の皆様に周知いたしましてやっている状況です。白老小学校では7月25日にアンケートを回収いたしまして数で131戸配付いたしまして提出された戸数が77件、回収率が59%となっております。この中で質問の内容なのですが説明を希望するか、またしないかというアンケートを取りまして、説明を希望するが22件、希望しないが54件、記入なしが1件、提出なしが54件という状況になっております。そのアンケートにもとづきまして9月6日に教育委員会の皆さんに来ていただいてもう一度説明会を今度は白老小学校の保護者の皆さんに集まっていただいて説明会を再度していただきました。集まった人数が残念なことに22件希望したのですが、集まった保護者は8名です。8名しか集まらなかったということで説明も何もない状況だったのですが、これでもう1回再度アンケートとっても多分同じことだと思いますので、それはやめて9月19日に白老小学校の運営委員会を開きまして、そこで統合する統合しないと有無を取るには臨時総会を開かなければならないということで、白老小学校の場合は臨時総会を開く場合は運営委員会の承諾がないと臨時総会が開けませんので、その旨をお話しして臨時総会を開くことに決定いたしました。今進んでいるのはここまででございます。

○委員長（小西秀延君） それではおのおの副会長さん以下も来ていらっしゃると思いますので、ご意見等がございましたら、お一人お一人お願ひしたいと思います。加藤副会長お願ひいたします。

○参考人（加藤泰久君） 加藤です。よろしくお願ひします。学校の適正配置ということで、やはり子供人数が少なくなっているということ。それから白老の校舎がすごいのですよ。この間、夏休み前に学校キャンプと毎年行っているのですが行きました。実は体育館がものすごく雨漏りするのです。去年なかつたところもことしはもう雨漏りがひどくて、逆に体育の時間何かで外で活動をできるときはいいのですが、雨降ったので中ですというときに体育館の中に水が入ってくると危ないのではないかと思います。これは私の個人的な考えとしては一刻も早く子供たちの安全を考えて廃合していただければなと思います。また子供に関してもやはり少人数より大人数で、多くの友達づくりであるとかそれから人間関係。やはりある程度大きくなってからではなくて小さなうちから、小学生のうちから人間関係をつくることによって将来人と人の接しやすさとか、そういったものを養成できるのかなと考えておりますので、私の考えとしては本当に一刻も早い統廃合のほう進めていただければと思っております。以上です。

○委員長（小西秀延君） ありがとうございます。続きまして越前副会長どうぞ。

○参考人（越前真理君） 副会長の越前です。今加藤さんがほとんど私の同じような気持ちをおっしゃってくださったので校舎の老朽化がまず問題点だと思ひまして、春先の廊下から教室から全部雨漏りがすごいのです。それでバケツの数がものすごく多いことになっていまして、滑ったりして子供たちにも危険だということ。校舎のこともあるのですけれども子供の人数も少なくなっているのです何か行事をするにしても少人数でなければならぬということ。もっと人数がいればやること、できることも多くなるのではないかと思ひます。統廃合には賛成です。以上です。

○委員長（小西秀延君） ありがとうございます。続きまして奈良監査よろしくお願ひいたします。

○参考人（奈良俊之君） 監査の奈良と申します。私もやはり皆さんと同じ意見で老朽化がひどいということ子供たちの勉強する環境としてはちょっといかがなものかなと思います。あとやはり生徒数、クラ

スカえができない、1クラスしかないのでできない状態で同じクラスという中でいろいろ友情を高めていくということも可能かと思うのですが、やはり大勢のいろんな人と接し合うというのが教育の中では非常に大事だと思うので、人間関係も固定してうまくいかなかった場合、子供の逃げ道というのがないような気がするのですよ。だからクラスかえとかそういう面も含めまして統合するには私も賛成です。以上です。

○委員長（小西秀延君） ありがとうございます。それでは続きまして増田監査お願いいたします。

○参考人（増田奈緒君） PTA監査の増田と申します。よろしくお願ひします。最初のほうは皆さんおっしゃっていたように小学校の老朽化ですとか、子供人数が少なくなっているというのも目に見えてわかっていまして仕方がないのかなという思いか最初はあったのですね。最初説明会も含め保護者説明会も2回ほどあって出席させていただいたのですけれども、教育委員会のほうの説明を受けて聞いていますとあまり中身がないようなふうに感じていまして、最初は仕方がないのかなと思っていた気持ちが、ちょっと難しいのかなというふうに27年度にこだわる必要は特にはないのではないのかなという気はしています。確かに小学校は老朽化であるのですけれども、緑小に移るにあたって通学の問題がやはりあると思うのですね。歩道橋の問題ですとかいろんなものがちょっと心配は心配な部分があって、それに対する答えとかってというのは全くあまり見えてこないというのが、ちょっと保護者のほうとしては不安材料が多すぎるかなというふうに思います。つい最近2回目の説明会のときにはもっと資料があるのかなと思ったら前回配られた資料と同じもので、答えを急ぐのであればもっとちゃんとした資料がないと判断材料がちょっと乏しい感じはします。ちょっと小学校だと伝達がうまくいっていないようなことをおっしゃっていましたけれども、それにあるにせよ納得してほしいのであれば、もっともつとつと資料があつていいのではないかと思っていますので最初のころよりは気持ちが変わって、今は教育委員会のほうでしっかり今後のこと、道しるべみたいなものがないと、私的には声を大にして賛成ですとは言えません。以上です。

○委員長（小西秀延君） ありがとうございます。ただいまPTAの役員の方からそれぞれご説明がございました。それでは委員会のご質問を承ります。挙手の上どうぞ。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 斎藤です。基本的なところでちょっと伺っておきますけれども、今まで説明会というのは2回。教育委員会の説明というのが全体のやつが1回と白小だけが1回というふうに押さえていいかどうか、ちょっと後できちんと教えてください。その回数とそれからそれを受けて、白小の中でPTAの中で集まって運営委員会だとか、そういうこの課題で話し合った回数というのはどのくらい話し合っているのか、お伺いをしたいことが一つです。日付とかはよろしいですよ。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） それでは今の質問にお答えいたします。5月31日に1日に事前説明会ということで3校のPTAの三役が集まっております。それから白小で6月から三役会では計4回、運営委員会では1回説明をしております。アンケートにもとづきまして、白老小学校で9月の6日に白老小学校の保護者説明会、教育委員会さんをお呼びして1回やっております。以上です。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 先ほど役員さんの大体ご意見というのはよくわかったのですけれども、全体の意見というか、そういう移行というのがまだアンケートがきちんと整理されていないから不明ということなのでしょうか、それとも大体の雰囲気というのはどういう雰囲気になっているのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） アンケートを取った結果、教育委員会で決められるものちょっと違って学路のものに関しては新しくできた学校が決めるものなのですけども、そういうところの部分の説明不足だとかいうのがありまして、白老小学校から緑小学校通う場合に通学路とか不審者だとか、あとそういう歩道橋だとかそういう問題をクリアしないとちょっと難しいのかなという感じはしています。結果的に白老小学校の中ではおそらくまるっきり反対という方も多分多はいらっしゃると思うんですけども、完璧に賛成という方もまた少数だと思うのです。その真ん中において条件が満たされれば賛成だよという人が多分ほとんどだと思うのです。という多分割合だと思います。どっちかにすると反対に行ってしまうし、どっちかにすると賛成に行ってしまうという宙ぶらりんの感じの今白小学校の保護者の気持ちだと思います。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） その中間の部分の説明がもっと納得のいくものにまだなっていないと。もう少し時間をかけてその辺はきっちり教えてほしいということなのでしょうね。今までや社台小、緑小やってきて3校でやるのだから今緊急性とは何だという話の中で、白小の校舎の問題というのが出ているわけです。何でそれをきちんと説明して、どんな状況になっているのか誰もわからないわけですよね。ひどいという古くなったという話は聞いているのだけでも、どのぐらいひどいかわからない。そんなにひどいだったら早く答え出してやらなければだめじゃないかという答えも出てくるのではないかと。そうすると今先ほども状況の話がありまして、私たち自身もわからないのですよ、今の状況。今から10年前統合の問題が出たのはあの頃は私も知っていたのですよ、雨漏りして玄関先、トイレのところまでずっとバケツを並べていたのを知っていますし、それから雨漏りしてしょうがないから、ブルーシートをかぶせて柱を乗せておいたらそれが落ちたとか、幸いけがはしなかったとか。屋根の裏にといをつくって雨漏りを全部流そうとしたのだけでももうまくいかなかったとか、いろんなことがあって、その頃からそういう話というのは随分あったのは知っているのです。だけでも最近の状況、あれから10年たっているわけですから、どんなになっているのかそのあたりの様子をもうちょっと具体的に教えていただけませんか。

○委員長（小西秀延君） 加藤副会長。

○参考人（加藤泰久君） 本当に雨の日に来ていただくのが一番おわかりいただけると思います。口で説明するよりは本当に百聞は一見に如かですので、雨の強い日にぜひ校舎のほうに来ていただいて、廊下それから体育館見ていただくと、特にその2階というのはものすごくバケツが並べてあるような感じなのです。体育館もすごいですし、体育館はすごくしみだらけですし端のほうは結構ベシベシのところありますよ。ですので、ぜひ雨の日に見に来ていただければ一番ありがたいかなと思っております。以上です。

○委員（斎藤征信君） 一線校舎、二線校舎ありますよね。みんな同じような状態ですか。

○参考人（加藤泰久君） 真ん中の二線校舎あまり使用してないで、あまり行っていないのでちょっとわからないですけども、普段教室のあるところでもやはりすごいですね。向こうのほうは音楽室だとか2階の上のほうはあまり使っていないので。言葉の教室。

○委員長（小西秀延君） すいませんちょっと雑談みたいになっていますので、マイクをお願いします。

○参考人（加藤泰久君） 本当に2階が特にひどいということで体育館本当にすごいです。もう5メートル、7メートルおきぐらいに雨漏りしていますから。そんなような状態です。

○委員長（小西秀延君） よろしいですか。ほか質問をお持ちの委員の方。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 私は耐震化の関係で中学校が統廃合、適正配置終わりましたよね。それより同時に進行するべきではないかという話はずっとしていたのですが、まず中学校終わってから小学校ということで今きたのですけれども、今お話ししてももちろん老朽化のこともありますけれども、先ほどから他ほかの学校みんなそうなのですけど、やはり説明不足というのがあって教育委員会の進め方、考え方も私たちはこれからまた議論していくようになると思うのですけど、期限のことなのです。27年という一応教育委員会が示した。これにはかなり抵抗があるというのがちょっと全体的にあるのかなと思っていたのですが、今の白小の現状を私は聞いていて1日も早くという気持ちがすごいのですね。だからその辺で期限的なことはまだこれから3年後、4年後に延ばされてもその辺はどんなふうと考えられるかなと思ったのです。27年ということではなくまた時間をかけるべきだとか、これだけは時間が足りないとかというお話が結構あったのですけれども、白小さんとしてもそういう話が出たかどうか。期限的なこと手続上とか不安材料はもうわかりましたので、そうじゃなくて期限的な手続だとかいろんなことでの期限というのはどのように捉えられているのか、ちょっと伺いたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） 期限的なものに関しては前回の教育委員会さんと呼んで保護者説明会をやったときにも出たのですけども、おそらく今の状態であれば11月ぐらいに応諾書を出したとしても27年の4月の統廃合は時間的には無理という意見が往々に出ております。ハード面というか校舎内を前提に考えていただければ早く統廃合したほうが良いとは思いますが、なぜなら耐震化の問題で耐震化をする以前の校舎なものですから、耐震化するのであれば全面的に校舎を改築しなければならないという結果が出ていますので東北の大震災みたいな大きな地震が北海道であると、間違いなく白老小学校は危ないという結果が出ておりますので、校舎のことを考えて子供たちのことを考えるのであれば早くしたほうが良いと思うのですが、何分に教育委員会の説明との部分であればおそらく11月に応諾書各校から出て、4月に準備委員会が設立したとしても多分1年間では無理ではないかという見解が今出ております。以上です。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） それともう1点、先ほどPTAのいろんな人が集まる状況というのは厳しいのは昔からそうだと思うのですが、適正配置、統廃合というのは大きな問題ですので特に白小さんは出ていかなければならないほうなので、学校の説明会行ったときにちょっとびっくりして聞いていたのですけれども、8名しか出られなかったということでこの出られないアンケート調査も59%の回収だったということで、その辺で父兄の関心というのかその辺はやるようにやっただけという意味なのか、役員の方たちでうまく進めてくれれば良いよという意味なのか、その辺はどんなふうか。今後これから人集めるというのは大変。最初は少ないということは段々多くなっていく可能性というのはないような気がして、近くなれば違ってくるかもしれませんが、出られないお母さん方の考え方みたいな、いろんなPTAの参観日だといろんなことで話なんか出ること出ないのか、その辺どのように捉えていますか。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） 関心がないというのはこの59%の中に全て出ていると思うのですが、しょうがないという思いの人のほうが多分強いのだと思います。周りの方からお話聞くと、もう統廃合するでしょう、しょうがないよねという声が非常に強くて、しょうがないかなという気持ちが一番多いと思います。白老小学校の場合は校長先生ともお話しして、統廃合するのもしないのか2つしかないと思うのですね。どうやって周知しようかと話したときに臨時総会を開くに当たって、委任状よりもどちらか決めていただ

いて提出してもらうような形をとろうかという話をしている、これはまだ決定ではないのですがそのような感じですよ。おそらく多くの出さない人たちは6年生でもう卒業してしまうので、いなくなるその人たちはアンケートを出してないと思うのですが、出してない人たちの半数ぐらい以上は多分もう仕方ないなという感じに我々は捉えております。

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑お持ちの方。

加藤副会長どうぞ。

○参考人（加藤泰久君） やはり先ほども増田さんから言われたのですが、通学路、例えば小学校1年生が3キロ以上歩いて学校に行かなければならないのかということなのです。小学校1年生といったら小さいです。僕も小学校のとき3キロ近く歩いてきましたけど、いつも遅刻でしたけど。遠いのは本当に大変なのです。ましてこのご時世今皆さんわかるとおり不審者も出ております。今いろんな車も、当時40年前よりも一家に1台というよりも1人1台の時代になりました。ものすごく危険です。そういったことをきちんと網羅していただけるのであればいいのですが、校舎のことはもう仕方ないし合併のことも仕方ないと。ただきちんと守るべきところをきちんと示していただいて、どんどん行動に移していただかなければ親の気持ちとしては納得できないのではないかなというふうに思っております。以上です。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） この通学路の問題というのは大きな事故があつてそれからの通学の安全性というのはきっと学校も父兄もやったと思うのですが、統廃合仕方がないというふうに考えたときに、通学路が1番心配だということであれば、私は前に学校に言ったことあるのですけれども、子供たちの足で歩いて安全道路とはどこなのだろうか、父兄と一緒に歩いてどこを通ったら安全なのか、もしやるとしたらそういったことを反対に教育委員会から示される前にこちら側からきちんとした安全路。もし条件としてつけていくというようなそういった考えはないかどうか。そのあとにまた事故ありましたよね。飛んでいったとか何とか。そういう事故があつたときに、交通量の多いところは避けてやるべきだと、ちょっとお話も出ていたのですが、そういうこと含めると私は学校、教育委員会が示すということよりも、PTAのほうとかお母さん方で本当に安全路とはどうなのだろうか。それは何キロ一番遠い子でかかるのだろうかとか、そういったことをきちんとこちらから持っていくという方法も必要、反対にやったほうがいいのではないかとちょっと思っているのですが、その辺はどのようにお考えになりますか。

○委員長（小西秀延君） 加藤副会長。

○参考人（加藤泰久君） 例えば日の出から緑丘の小学校に通うときにポロトのところが踏切を使えば早いですよね。ですけれどもあそこのは踏切のところは人が歩けるような歩道をきちんと確保しているようなスペースがないです。ではあそこを通学路にするかということそれはできかねます。私たちが思っているようなところと、その実際に安全かということを通るとなると遠回りになります。そうするとどんどん距離が伸びます。まず周辺整備をきちんとしていただかないと、こちらとしては納得できないというような、そういうような思いのほうが強いです。実は本当に1番近いところきちんと整備していただけるのが一番いいです。ですけれども一番通りたいところがここを歩いてはだめと言われるとこちら側から示しても、もし何かあつたらうちのほうで責任とれるのかということになると、それは親としては責任とれませんから逆にその行政側としてきちんとお金もかけていただきたい。きちんとお金をかけて子供たちの安全を確保していただけるような動きがないと私たちとしては親の立場としては納得できないので

はないでしょうか。以上です。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 先ほどの増田さんおっしゃった部分考え方は社台はちょっと条件違うのだけど緑小も同じなのです。そして一つお聞きしたいのは統合には賛成というのはこれは私も理解しているのだけでも、手続の方法として応諾書を出す前に時間的なずれは別にしても今加藤さんがお話されたように統合を前提にすれば条件が先ですよ。その辺の教育委員会との相互というのが若干あるのです。教育委員会はバスを応諾したけど、ほかの学校の父兄の人方、保護者にすればそれは前提だけでも条件が先ですよと、子供たちの安全確保。白小学も今後教育委員会とこれは話していくと思うけど、そういう方向のほうのやりとりになりますけど。議会としてもこれから教育委員会と話をするからその辺を理解しておかないと。

○委員長（小西秀延君） 増田監査。

○参考人（増田奈緒君） そうですね、これ白老小学校の保護者、私の周りですけれども賛成という人はなかなかいないです。確かに校舎が古いとかいう条件はわかっているけど時間が短いとか、通学路の問題一番心配しているので、先に提示されてからのほうがいいかなと思っています。歩道橋一つにしても私も実際に役場の前の歩道橋で落ちている、転んで落ちているのです冬場に。そういう大人でも転ぶ子供もなると思います。夏よりももっと着込んで靴とかもスニーカーではなく防寒靴みたいのを履いていくと思うのです。だからそういう面で歩道橋に関してもそうですし全体的なものは先に応諾書よりもというのはあります。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） 今の前田議員の質問に対して教育委員会の説明の中で応諾書。この応諾書ありきの説明会なのです。何を決定つけてその後応諾書出すかという中身が見えてこないのです。であれば増田さんが言ったようにそういういろいろなものをクリアして出す応諾書なのか、それとも合併するだけのために出す応諾書なのか、増田さんとかが言う質問には全て応諾書をいただいて準備委員会ができ上がったからの話ですよというしか捉えられていないです僕たちは。そういうことなのでちょっと今渋っているというか応諾書をどうやって出そうかなと今感じっております。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 条件とか云々というのはこれからなのだけど、ただ1点だけ聞いていきたいのですけど、社台小学校バスで通学するそうですが白小も今加藤さんがおっしゃったように東西長いですよ、同じ校区でも。東町と大町では当然東町前通ってくるときに、社台の子供たちがバスで行くのに何で歩いていかなければいけないのかと出てくるのだけど、今何回かやって保護者会で条件的な話までいったのかどうかかわからないけど、その辺の白老小学校としての保護者としてのバスを出してほしいとか限定的な部分、全部というわけにはいかないでしょうけども、それ辺の意見というのはそこまでまだいっていないということで解釈していいですか。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） アンケートの中にも登下校のスクールバス、全員とまではいかないまでも低学年、1年生、2年生、3年生までの部分でスクールバスを運行していただけないかという。月額いくら取られてもというアンケートも出ているので、ぜひ検討していただきたいというアンケートが出ております。以上です。

○委員長（小西秀延君） 加藤副会長。

○参考人(加藤泰久君) 特に日の出の遠い方とかせっかく社台から来るのであれば、その途中に乗せてくれてもいいのではないかというような意見も結構あるのです。バスの運行に関しても例えば元気バスをうまく使うとか、そういった知恵を出しながら子供たちのこと考えてもらえばなという意見は多々出ています。

○委員長(小西秀延君) ほか意見をお持ちの委員の方。

本間委員。

○委員(本間広朗君) 本間です。9月頃に運営委員会開いて臨時総会開くということになるとお聞きしたいのですが、それを臨時総会の時期というのはまだ多分決まっていないと思います。これは日程からいけば応諾書11月でもう本当に近々でやらないとこれには間に合わないということにはなるのですが、先ほど皆さんいろいろな課題というか、学校の課題というのがありますよね。その何か月間にその課題というのは、おそらく整理できないと思うのですよね。ですから結論から言えば応諾書は出せるかどうかという教育委員会としては出してほしい考えなのですが、これから教育委員会をどのように皆さんのご意見を受け取っていただけるかどうかかわからないのですが、臨時総会まで日程というのはある程度決めないというか、前の緑小も社台小も言っていると思うのですが、ある程度結論を出さないとだめだと思うのですよね。それから時期は別にして、いつ応諾書というか、オーケーを出すかというのをやらないとだめだと思うので、そうすると延び延びになって、今皆さん言われたように本当にその校舎の雨漏りとかそういういろんな悪条件の中で子供たちが勉強してということを見ると、できれば早いほうが良いという意見だと思いますけど、その大体皆さん今思っているそういうスケジュールっていうか、なかなかちょっと具体的に何日、いつまでというか、わからないと思いますけど、皆さん役員なのでその辺のところを考えてやらないと、アンケートの中にはもちろんほとんどの方はどうせ統合するのだろうという考えの方も多いと思うのです。このとき説明会に8名来たというのはそれが現実なのかとちょっと受けとめたので、その辺のところも臨時総会の前にその辺もちょっと課題整理したほうがいいのかなど思っているのですが、役員の皆さんはその辺スケジュール的にも先ほどちょっと無理かなとは言っていたのですが、どうなのかとちょっと聞きたいのですが。

○委員長(小西秀延君) 熊谷会長。

○参考人(熊谷貴洋君) 今のご質問で11月に応諾書を提出してほしいというのは委員会のほうの見解なのですが、それはなぜかという横断歩道を修理するのに予算を引っ張るのに11月がリミットだと言われているのでとそこまで言われたので、子供たちの安全を考えるのであれば11月の応諾書を出さなければ歩道橋が直せないというのであれば、それで出したくないはないのですが、でも結論的には白老小学校の場合も11月ぐらいに臨時総会をいつとは決まってないのですが、開くということは決まっているので、そこでおそらく決定すると思います。11月に臨時総会を開くというのは決まっているので、この前の運営委員会で11月ぐらいに開きたいという旨を伝えてはあります。

○委員長(小西秀延君) 本間委員。

○委員(本間広朗君) おそらく教育委員会のほうはある程度応諾書ももらってから、その課題を整理していこうという考え方だと思うのですが、でもある程度皆さんのそういう今言った歩道のこととかある程度聞いてないと担保も必要だと思うのですよね。その辺のところをちゃんと教育委員会にぶつけていくといったらあれですけど、言っていかないと、後でももちろんいいのかもしれないですけど、多分教育言委員会はそういうことだと思っていると思うのですよね。後で準備委員会に入って協議すればいいのでは

ないかという話なので、ただそういうバスも聞きましたけど、いろんなそういう細かいところ本当にまず提示していかないと、後で本当にその逆に準備委員会で、おそらく半年というか4月から始まったら本当に何カ月もないですよね次の年まで。それまでに課題が整理できるかなと。ただ僕は統合経験していますので結構長い時間5年でやっていたので、その短い間で果たして整理できるかなという。ただ皆さんの心情考えると、とてもちよっと厳しいのではないかなと思っていたので、その辺のところ皆さん本当にそれでいいのかというのをちよっとお聞きしたいなと。正直に言っていただければ。

○委員長（小西秀延君） 増田監査。

○参考人（増田奈緒君） 問題提示は説明会のときに私もそうなのですが、何度も説明会のたびに言ってきているつもりです。歩道橋もいつ直すのかどれぐらいの規模で直すのか、もし自転車通学いいとなるとそれを視野に入れての補強なのか、いろんなこと聞いているのですが、応諾書がなければできないですとか、まずは応諾書からというのと、後その予算もつけなければいけないので予算もどれぐらいつくのかわからない的なことを言われると、どういうもの想像しているのか、私たちもわからないので、いろいろバスのことも言っていると思います。せめて直す間だけでも出せないのかとか、低学年間は出せないのかとか、直している間、子供たちを通すというのはいくら指導員さんを置くとは言っていましたが、一人一人について歩くわけではないですし、普通ならばある程度全部が整備整ってから、これだけ安心ですから統合してくださいというのが普通だと思うのです、なのでちよっと順番が違うのかなという思いもあります。

○委員長（小西秀延君） ほかに意見ございますか。

斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 期日がないのに随分準備不足というか論議不足だなと、どこを聞いてもみんなそう感じるのですよね。本当にこれでは一大事業、学校を1つにまとめていくなんてことは一大事業で、一つ間違えばまちづくりにかかわってくるわけですから、こんな論議でいいのだろうかという気がするのですよ。1番最初に各地域に1つずつ小学校があったほうが望ましいと言ったときから、それはその地域の小学校というのは地域の文化センターですよ。本当にそこを中心になって町まちつくられていくようなそういう役目を果たす。そういうためには各地域に小学校が1つずつあればいいな。だからはじめに各地域に1つずつしたのは私賛成しました。ところが白老の場合は鉄南と鉄北でこれは1つなのかと。違うふうに発展していった別々ではないかと。だとすれば別々に学校があってもいいのではないかと私はずっと考えてきたのです。だからそういうことからいうと、どうすれということはいいませんけども子供の教育環境のほかにもう一つは地元で地域にある小学校、中学校はいざしらず小学校があるということが本当に自分たちにとっては今生活している親にとってはすごく大事なことになるはずですよ。そういうことまで論議が尽くされるのか出てくるのか、それを抜きにして校舎雨漏りしているからもう動かなければだめだというふうになってしまうのか。本当に今ここで金がなくても何とかしなきゃならない、俺たち守るからというふうな形にならないのか、そこまでの論議って学校は俺たちが守るからという、そういう論議というのは起きないかどうか。そういう論議の場所はないかどうか、それなしに終わって進んでいくのでしょうか。そのあたり。

○委員長（小西秀延君） 加藤副会長。

○参考人（加藤泰久君） 白小のPTAのほとんどの方は今の校舎がいいのですよ。建てかえをしてほしいのですよ。本当に今委員おっしゃられたとおり、そのために移してそこに家を建てた方もいるのです、

学校が近いからということで。ちょうど小学校と中学校の間とか、そういった方が今度小学校だめだからあっちへいくかという話には本当賛成できないのです。ですけれども白老町お金ないのは知っていますし、建てかえると言ったら私たちの税金ですよ。ほかのことも充てられるわけですから、仕方ないよねというのが本音だと思います。私たち本当は建てかえていただきたいのです。そういう意見もアンケートの中には出てきます。ですけれどもそれはどう考えても現実的な話だと思いませんのでその辺は仕方ないということでぐっと抑えているのですよ。委員おっしゃるとおりそういうふうにしていただくのであればそれは白老の建てかえ運動としてPTAしますよ。この校舎もうだめだということで現状を道にでも国でも訴えていきます。そういうことはできます。ただそういうふうになると多分困るのではないかなと思います。ではもうちょっとこういう案があって近くでもないですけれども学校があって、こうやって一緒にできるのだというような考え方もあるので、それに習っていこうという、自分たちの気持ちはぐっと抑えているということもお察しいただければと思います。

○委員長（小西秀延君） ほかございますか。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 11月に応諾書を書くように各学校全部そうなのですが、もしかしたら今のままでそれは成立しないかもしれないですよ。私今ずっとお話聞いていて教育委員会の説明というのは子供の教育環境という子供が育っていくためにクラスがかえが必要だとか、そういったことの条件を今回は並べてどこの学校もそうなのですが、いろんな思いがあって子供を通わせる、安心安全のための方法をどうとっているかということがきちんとならないと応じられないというか、それで心配だという話どこも出るのですけれども、今お話って私もちよつとは前のときに、条件ちゃんと全部言って整わないでできないということも必要なのではないかと言ったのですけれどもそういうことなのだというふうに思うのですよ。教育委員会の今の方針では私は学校のあり方、子供の成長のための学校のあり方みたいなのを前提に応諾書だと思うのです。だけどそれに附随するものが整ってないというのが今現状ですよ。安全、安心の部分はどうするのだとことが整わないとだめだということは、どこの学校も言っていますのでそういったことをきちんとまとめて、あったらいいあったらいいではなくて、ここは最低限譲れないというものをきちんと提示すべきではないかなというふうに思うのですけれども、その辺。これ私たちは今伺った、委員会でもまたこれから議論していくようになると思いますけれども、参考人として来ていただいているいろんな意見を伺いましたので、そういった強い思いというのをきちんと確認しておきたいなというふうにちょっと思ったのですけれども。

○委員長（小西秀延君） 加藤副会長。

○参考人（加藤泰久君） もろ手を挙げて賛成という方はいないです。中にはいるのかもしれませんが。要は応諾書出して後は任せますよというようなことはしたくないのです。今回は総会前に役員会を開かなければいけないと思うのですけれども、総会のあり方としてこれからなのですからどういうふうにしていくのか、条件つきで賛成していくのか、そういったこともこれから揉んでいくというような形ではこの間お話しさせていただきました、会議の中で。以上です。

○委員長（小西秀延君） 斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 先ほど通学路の話あったのだけど、条件つきの考え方になるかどうかは別にして、これどちらかに転ばなければどうにもならないことですから。ただ通学路というのは誰が決めるのかといったら学校が決めるのですよ、親と相談して。1番安全なところ。だからそれは今から心配だ心配だと慌

てもだめなのです。これは後になってから地域のばらつきだとか、それから友達がどのくらい固まって歩けるかだとか、それから兄弟がどのくらい集まってどういう通学状態になるかという、そういうことを考えた上で通学路と決めていくわけです。だからこれだけの人数いるからこの道が安全だからこの道通りなさい。こっち人がいるけどもここは通らないでちょっと遠回りになるけどこっちやりなさいとこれ決めるのは学校です。そういう細かいことは学校なのです。ただ白老の場合はこの3カ所の踏切、これ絶対通らなければならないですから。子供みんないるわけですから。そうするとこれは学校に任せましたなんという代物ではないですよ。そういう安全というのは、ではこれは町が守らなければならないことであって。そういうものは条件としてびしっと環境整備中でやるべきだろうと。あんまり細かく突っ込んでしまおうと両方とも窮屈になることは確かなのだけど。そういう大まかな環境だけをきちんと押さえた上で、そのいい環境の中でどう通すとか決めるの学校なのだというふうに捉えておいていただければなというふう思うのです。

○委員長（小西秀延君） 加藤副会長。

○参考人（加藤泰久君） 教育委員会から提示があったのは駅とそれから駅のところの保線橋ありますよね。それとこの役場前しか通ってはだめなのです。ですから先ほどポロトの話をしたのです。日の出の人はぐるっと回らなければならないという話も先ほどしました。教育委員会のほうで、きちんと親の子供の実情にあったような提示をしてないですよ。3カ所しかないと言われても、3カ所ではないのですよ、教育委員会は。そういうことで私たちは、これではだめでしょう。だからポロトのところもこれからイオルの構想で人通るので早く直してほしいのです、子供たちがきちんと安全に通れるように。そういうことを今こうやってお願いして、でなければ日の出の子供たち低学年はバスに乗せてとか、だからそういうお話をさせていただいているのです。教育委員会が提示は2カ所ですから。以上です。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） 今の中でこちら側には跨線橋を直すなり歩道橋直すなりの明確な掲示が一つもないのです。口頭では何千万かかります何億かかりますよというのは言われているのですけども、それをいついつまで直していつまでかかるとか、そういう目に見えた資料が一つもなく、それを突っ込んで聞くと応諾書をいただいてからという返答にしかならないのです。それは準備委員会が開かれてからという一点張りなので不信感が出てくるのです、こちら側としても。

○委員長（小西秀延君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 7時 31分

再開 午後 7時 45分

○委員長（小西秀延君） それでは休憩を閉じて会議を再開いたします。質疑を続行いたします。質問のある委員の方は挙手のうえどうぞ。

斎藤委員。

○委員（斎藤征信君） 前に3校のPTAが揃って協議したらどうなのだろうかというお話があったのだけど。教育委員会はそういうつもりは全くないのですか。3校合わせてどういうふうにするという話というのは。

○委員長（小西秀延君） 熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） 1回3校の役員が集まって協議するというのはあったのですが、実現に至

ってないというのが現状です。校長先生に言われたのは教育委員会入らないで、校長とPTA会長が集まって1回お話をしたいなという打診は受けました。でもまだ実現には至ってはいません。それが現状です。

○委員長（小西秀延君） 最後私から、教育委員会サイドでは応諾書は私たちに説明受けた中で、私が理解している範囲では統合に賛成かどうかを先に応諾してもらい、その後準備委員会という流れで考えているようなニュアンスで聞いておりましたが、PTAの役員さんからご意見を聞きますと、具体策が見えてこないとなかなか統合するというところにも応諾できかねるところもあるというご意見が多く聞かれております。それを教育委員会サイドさんが考えを変えるような形になってほしいというのが本音でしょうか。もっと条件がここまでは形的に遂行していけるような条件を整えば応諾しやすいというような考えが主流派になっているということで理解してよろしいかどうか、ご質問したいと思います。熊谷会長。

○参考人（熊谷貴洋君） 小西議員から言われたとおりだと思います。先ほども説明したように応諾書は何のための応諾書というのがよく見えてきてないというのは今現状なので、やはりいろんな今課題皆さん言われたような課題をクリアしての応諾書じゃないと、おそらく保護者は納得しないと思うので、そこら辺も踏まえて教育委員会さん側に掲示をしていただいた上での協議をしていきたいというのが考えです。

○委員長（小西秀延君） 加藤副会長。

○参考人（加藤泰久君） 確かにそうなのですが、ただ先ほど来ちょっとお話をさせていただいていますが、校舎が本当にもう大変で子供の安全が現状では確保されておられません。ですので、速やかに提示していただくよう本当にお願したいなと。27年度の予定が28になってもいいかもしれないのですが、子供のこと考えると少しともはや早いほうがいいのかなと僕自身は思っております。ですからこちら側で提示するものに関しては通学路ですとか、スクールバスですとか、そんなに負担のないことだと思うのです。ですので安全だけきちんと確保していただければ応じる構えはありますので、それよりも今の白小の現状を皆さんに見ていただいて理解していただければと思います。以上です。

○委員長（小西秀延君） 追加の質問ですけど、最低条件というのは通学等に関することというふうに理解してよろしいですか。例えば踏切の問題、自転車の問題、通学バスの問題等がまず最低条件だというのが、白小の保護者の皆さんの大体の総意というふうに理解してよろしいかどうか。増田監査どうぞ。

○参考人（増田奈緒君） あと通学路もそうなのですが、特別支援のこともちょっとふえるに当たって、今1対1なのがふえると2対1になってしまうのかとか、ちょっと三役の中には多分特別学級で通っている子はいないのかなと思うのですが、そういう声もちょっと聞かれてはいます。できれば白小はこちらのほうに残してもらったほうが地域が活気がなくなっていくような気がするのです。

○委員長（小西秀延君） 通学路と特別学級等の支援ですね。ご意見として承りました。ほかになければ閉めたいと思いますがよろしいですか。ご質問はないようでありますので、参考人の熊谷会長初め副会長、監査役員の皆様、本日は大変ありがとうございました。ここで退席をお願いいたします。暫時休憩いたします。

休憩 7時53分

再開 8時03分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。これで統合対象校3校の参考人のご意見をお聞きしましたが、引き続き各委員からご意見を出していただいて、審議を続けるか、次回の会議において行うか諮りたいと思います。次回の教育委員会からの説明を受けた後、皆さんからご意見をいただく

ということでしょうか。それでは、10月10日午前10時からのご予定になっております。もう1点確認をさせていただきます。PTAからの意見をまとめるのもそのとき一緒でしょうか。教育委員会からのお話を聞いてからでしょうか。ちょっと内容で確認しなければならないこともあります。吉田委員どうぞ。

○委員（吉田和子君） アンケート調査、ちょっと数字的なことある程聞きましたけど、教育委員会でまとめたものをきちんと示していただいて、それを聞いた上で各学校の意見も集約、いろいろ聞いていますので、そのアンケート調査等を踏まえながらきちんとまとめて、最後に委員会報告ということなると思うのですが、それ以前に教育委員会の考え方を聞かなければならないことがあると思いますので、アンケート調査の結果を聞いてから、またいろんなことをお伺いして、そのうえで学校のまとめをしてという形の流れるにはいいのかなと思うのですが。

○委員長（小西秀延君） ほかがございますか。それでは意見のないようでございますので、次回10月10日の教育委員会からの説明を受けた後、各委員からの意見を聴取し、委員会としてのまとめをその後行っていきたいというふうに、スケジュール的に進めたいと思います。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（小西秀延君） それでは本日の会議はこの程度にしたいと思います。これをもって本日の総務文教常任委員会を閉会いたします。ご苦労様でございました。

（午後 8時05分）